

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター佐鳴台担当圏域レベル）開催報告書

1 開催日時	令和8年2月17日（火） 10時00分 ～ 11時30分
2 開催場所	西部協働センター 202・203講座室
3 参加者	25名
	委員14名（佐鳴台地区6名、城北地区8名）、関係機関11名
4 協議の内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 佐鳴台・城北地区生活支援体制づくり協議体 会長</p> <p>3. 地域包括支援センター佐鳴台より</p> <p>①追分小学校での認知症サポーター養成講座について 2/10追分小学校にて小学生向け認知症サポーター養成講座を実施</p> <p>②あんしんネットワーク・「浜松市認知症高齢者等に優しいお店・事業所」認証店とは？ 佐鳴台にある「はな葬」あんしんネットワークに新たに加入。今後、認証店にも加入していく予定 あんしんネットワーク・「浜松市認知症高齢者等に優しいお店・事業所」認証店について概要説明</p> <p>4. 令和7年度 第2回協議体の振り返り 前回の協議体の議事録、パワーポイントを用いて各地区で出た意見を共有</p> <p>①はな葬の取り組みについて～感じたこと、気付いたこと～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域団体が担ってきた地域活動とは異なる企業での新しい社会資源</li> <li>・単発的支援にとどまらず、関係性を築きながら見守りにつながっている</li> <li>・企業の地域活動は地域住民には十分に認知されていない</li> <li>・個人情報取り扱いなど、地域と企業が連携を深めるには…</li> </ul> <p>②社会資源を活用した、協力した、協力したさりげない見守りについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞配達、宅配業者、金融機関、自治会、地区社協など「さりげない見守り」が存在していることが再確認できた</li> <li>・「とじこもり」年代や背景によって課題や必要な支援が異なる</li> <li>・日常の生活の中での「声かけ」が安心につながっている</li> <li>・既存の見守り活動で企業と連携し魅力のある取り組みが地域全体の見守り力の底上げにつながると考えられる</li> </ul> <p>5. 地域での見守りエピソード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①高町あんしんネットワーク➡相談があった事例</li> <li>②和地山公園にてラジオ体操➡30～40名くらい集まり気に掛け合っている</li> <li>③新聞店➡見守り事例</li> <li>④駄菓子屋➡子どもの居場所が復活</li> <li>⑤野菜販売➡駄菓子屋の敷地内で自然な交流、ゆるやかな見守り</li> </ul> <p>6. 浜松磐田信用金庫・蜷塚支店 山の手ラウンジ チーフマネージャー 鈴木真由美様 ～地域活動の取り組みについて～ 鈴木真由美さんは初めての女性支店長に就任されたり、行政・自治会と連携し空き家対策を調査したりと女性管理職の先駆的存在である。金融機関をお招きし独自の地域貢献活動や窓口業務での事例についてご講話いただく</p>

7. 協議事項（グループワーク）地区混合で分かれて話し合う

■協議テーマ①「さまざまな社会資源との関わり・つながり」

【グループA】

- ・浜松磐田信用金庫の活動を地域に対して何ができるかまとめて発信してほしい
- ・以前、民生委員に連絡➡認知症？の方の対応
- ・民生委員の活動を数年しているが、地道に対応すると関係性が改善されやすい
- ・金融機関は信頼がある。地域に根付いている
- ・シニア向け➡まだ自分には早いが相談に乗ってもらえるのはありがたい
- ・認知症になった時と言われるがそれはいつなのか？  
どこから認知症と判断されるのか？
- ・社会資源をデータベース化（魚屋、八百屋、高齢者の集まる場所等）  
➡自治会単位でいいかも

【グループB】

- ・山の手ラウンジはたまに行くが賑わっている
- ・「はましん」のコンセプト「地域貢献」はどこからきたのか？  
企業に利益があるから？他企業との差別化？
- ・はな葬さんもそう。社長がそういった気持ちがあるため社員がついてくる
- ・はましんは地域と密着している。色々なサービスには興味がある
- ・はましんはよく利用しており、職員に親しみがあり業務以外でもイベントをやっており誘われることもある。終活に関することも相談しやすい➡金融機関のため信頼感が高い（安心できる）
- ・地域の集まりにつながるサポートをしていることはよいことだと思う

【グループC】

- ・地区社協連絡会で曳馬地区のT工業へ行った（地域、企業、住民がつながる）
- ・地域で声かけができるような所を紹介して欲しい➡ここに行けば集まるとか…
- ・つながりを持つキッカケとは？➡ゴミ出しや回覧板、立ち話、散歩中の声かけ
- ・行政から企業へ働きかけるトップダウン型の仕組みがあってもいいのでは？  
➡地域から動いていくものとは違うのでは？
- ・個人情報への考え方の変化、地域のつなぎ役の中でも変化がある  
➡必要な情報でも簡単には共有できない
- ・個人情報は基本として家族単位と考えていたが、家族ではなく個人のもの  
➡地域で支えるために丁寧に扱う（理解していくものである）

■協議テーマ②「広く住民に意識してもらうには」

【グループA】

- ・定期的に周知できるとよい（あんしんネットワーク）
- ・回覧板➡素通り（2世帯だと一方の世帯しか見えない）
- ・掲示板➡場所がない（公民館のみ）
- ・スーパーにある掲示板（地域インフォメーションボード）などの活用
- ・掲示するスペースを増やす（意図を持った掲示）
- ・ゴミ出しマナー違反➡自治会+住民で注意➡改善
- ・顔の分かる関係性を持つことが大切➡課題

【グループB】

- ・自治会の総会で話をすれば広がると思う➡役員会、地域の人が集まる
- ・協働センターでのイベントや講座で話す➡ブースを設けたり、祭りだったり
- ・あんしんネットワークのチラシ➡行政の人からの説明があるとよい
- ・自治会➡回覧する、掲示する際、公のものか？利益のするものか？区別する必要がある  
あり気を使う。お金が発生するものは断る

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あんしんネットワークのチラシは回覧板でまわせる</li> <li>・浸透するまでに時間がかかる</li> <li>・山の手ラウンジのイベントで人が集まれば周知、広がる</li> <li>・チラシやCMはあっても自分事として捉えると活用しやすい。地域にある企業が手伝ってくれると安心</li> </ul> <p><u>山の手ラウンジは地元の特徴でもあるし良いのでは（強み）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怪しい話が多く信ぴょう性というのも壁</li> <li>・高齢者見守り110番はどこにつながる？ ➡土日は守衛室で各課に振り分け</li> <li>・周囲が意識して住民同士を見守っている</li> <li>・声かけが大切。続けていると返ってくる</li> <li>・小学生安全とわかるようタスキをかけて身分がわかるようにしている</li> </ul> <p><b>【グループC】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・顔を知ってもらうにはどこにでも顔を出しなさいと教えられた ➡自分は名前を知らなくても相手が顔と名前を憶えてくれた。そういう動きをしないと広まっていけないと感じた</li> <li>・交通安全・詐欺・見守りの3点で感じたことを自治会や会合で話してもらおう ➡情報を共有して何かあったときにつなげる</li> <li>・知るキッカケがないと知らないままになる。自身に何か起こった時でないと感じない</li> <li>・後で広報されていたことに気付く時がある</li> <li>・自治会の行事など集まった時に必ず知らせる ➡広報に目を通させる機会にする</li> <li>・広報の要点だけを抜き出してチラシにして友愛訪問の時に伝える ➡配っても目を通してもらえないので切り抜きしておく</li> <li>・その人が知りたそうな分を抜き出して伝える。相手に合わせる</li> </ul> <p>7. 事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議体委員の調査票 <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年度 第1回佐鳴台・城北地区生活支援体制づくり協議体会議</li> <li>日時：令和8年7月</li> <li>場所：西部協働センターまたは佐鳴台協働センター</li> </ul> </li> </ul> <p>8. 閉会 佐鳴台・城北地区生活支援体制づくり協議体 副会長</p>
<p><b>5 今後の見通し・必要な対応</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな社会資源と地域力が存在する一方で、それらが十分に「つながり」「共有」されていない。自治会単位での社会資源の見える化</li> <li>・地域企業との定期的な情報交換の場</li> <li>・住民が集まる場所を活用した周知や継続的な関係性づくりの強化</li> </ul>